

【不祥事根絶に向けた本校の決意】(行動基準)

- 1 私たちは、子どもを守り育てます。
- 2 私たちは、法令を遵守します。
- 3 私たちは、不祥事を起こしません。

不祥事根絶のための行動計画

三次市立川西小学校
作成責任者 校長 平田 雄三

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○当事者意識を持った服務研修が十分にできていない。(不祥事に対しての課題意識、危機感が不足。) ○一人一人がセクハラ等ハラスメントに関する理解が不足していた。 ○職員同士で指摘しあうことが十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員一人一人が当事者意識を持った服務研修を実施する。 ○セクハラ等の理解を図ることができるよう研修を企画する。 ○お互いの信頼を高め、協力して校務に取組む職員集団をつくる(悪いことは悪いと指摘しあえる職員集団)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の方法や内容等を見直し、ロールプレイ等、より体験的な研修を実施する。 ○セクハラ等ハラスメントに関する専門的な知識を有する講師を招聘する。 ○子どもを中心に据え、お互いに批正すべきことはきちんとと言える職場の雰囲気作りを進める。そのために、具体的な事項(例えば、職員室の机の片付けに取組む等)について共通認識で取組み、お互いに声を掛け合い、不祥事防止委員会が確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期に1回、職員に服務研修についてのアンケート調査を行い、不祥事防止委員会で協議する。 ○月に1回程度、不祥事防止委員会で職場の状況、気になること等について情報交換し、対策について協議する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○職員同士のコミュニケーションが十分でない。 ○不祥事防止委員会メンバーの具体的な役割が不明確である。 ○「不祥事防止委員会」と「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」のメンバーが重複している部分もあり、両者の役割が不明確である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員同士のコミュニケーションをさらに充実させ、組織として仕事を進めることができるようにする。 ○不祥事防止委員会の仕事内容、セクハラ窓口の仕事内容を整理し、関係性を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各部会等で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。 ○情報の共有が図れる仕組みをつくる。 ○不祥事防止委員会の仕事内容、セクハラ窓口の仕事内容を整理し、メンバー各自の役割や関係性を明らかにした図表等を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○月に1回、部会で情報交換を行い、状況を把握する。 ○学期末に不祥事防止委員会で状況を確認する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」が十分に機能していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の相談体制の充実を図り、相談しやすいものにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談があったとき、誰が、どのように対応していくかのマニュアルを作り、いざというとき機能できるようにする。 ○学校だけでなく、ホームページ等で保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。また、授業参観等保護者が集まる機会を利用して、相談窓口の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○『危機管理マニュアル』に相談窓口に関する相談があった場合の対応の仕方を掲載する。 ○学期末に児童、保護者及び本校教職員を対象に相談窓口に関するアンケートを実施する。